

A01a 時間変動天体に関する情報流通の現状と展望

山岡 均 (九州大学・理/ICSWSE、IAU Commission 6)

新天体が発見されたり、天体の時間変動が検出されると、その情報は広く公開され、全世界の天文研究者がその天体をそれぞれの手法で観測する。これは学問分野としての天文学の際立った特徴で、研究対象を占有するために情報を囲い込まないというのが天文学の伝統である。

新天体を国際的に公式に広報することは、国際天文学連合 (IAU) の役割のひとつである。突発天体现象の広報を含めその実務は、天文電報中央局 (CBAT) と小惑星センター (MPC) が担っており、それぞれ IAU サーキュラー (IAUC)・電子電報 (CBET) と小惑星回報 (MPC)・小惑星電子回報 (MPEC) 等を発行している。現在の主要なメディアは電子メールであり、Web サイトでアーカイブを閲覧できるが、記録としての印刷物発行も続けられている。特異小惑星や突発天体を世界中で広く確認・追跡するために、Web 技術を活用したサイトが運用されている。

いっぽう 1990 年代後半から、ガンマ線バーストに関するメーリングリスト形式の速報 (GCN サーキュラー) が運用されるようになり、同時期に高エネルギー現象を主要なテーマとするやはりメーリングリスト形式の回報 (Astronomer's Telegrams: ATEL) が発行されるようになった。IAU サーキュラーとの違いは、編集の手が入らず投稿内容がそのまま流れること、無料配信であることが挙げられる。

近年、新天体を発見しても CBAT へ報告せず ATEL で公表するだけの研究グループ、また自分の Web サイトでのみ公表する研究グループなどがあり、天体発見に混乱が生じている。CBAT の役割等を含め、天文学コミュニティにおいて今後の方向性を議論していく必要がある。講演では、8月の IAU 総会における対応を含め、現状と展望を紹介し論議する。